

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-157292

(43)公開日 平成6年(1994)6月3日

(51)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/50		9283-4C		
7/00	V	7252-4C		
	C	7252-4C		
C 1 1 D 1/37				
// (C 1 1 D 1/37				

審査請求 未請求 請求項の数1(全 6 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平4-341300

(22)出願日 平成4年(1992)11月26日

(71)出願人 000000952

鐘紡株式会社

東京都墨田区墨田五丁目17番4号

(72)発明者 土屋 雄一

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘  
紡株式会社化粧品研究所内

(72)発明者 吉田 勝彦

神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘  
紡株式会社化粧品研究所内

(54)【発明の名称】 パール光沢を有する洗顔料組成物

(57)【要約】

【構成】 特定の脂肪酸組成を有するエチレングリコールジ脂肪酸エステルと、イセチオネート型陰イオン界面活性剤と、N-アシルグルタミン酸塩又はN-アシルアスパラギン酸塩とを含有することを特徴とするパール光沢を有する洗顔料組成物。

【効果】 本発明のパール光沢を有する洗顔料組成物は、皮膚に対する作用が温和であり、しかも優れた起泡力を有し、良好なパール光沢を安定的に保つ。

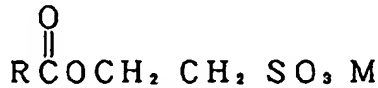
1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 脂肪酸組成がC<sub>14</sub>が20～80%、C<sub>16</sub>が0～80%、C<sub>18</sub>が0～80%、ただしC<sub>16</sub>とC<sub>18</sub>の合計量が20～80%のエチレングリコールジ脂肪酸エステルと、

一般式(A)

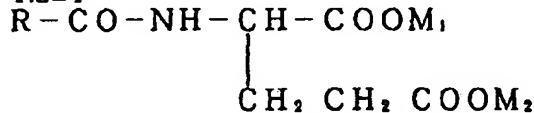
【化1】



(式中、Rは炭素数7～19のアルキル基またはアルケニル基、Mはアルカリ金属、NH<sub>4</sub>又はアルカノールアンモニウムイオンを示す。)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤と、

一般式(B)

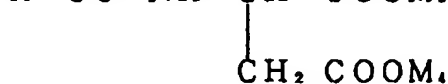
【化2】



(式中、Rは炭素数7～21のアルキル基またはアルケニル基、M<sub>1</sub>、M<sub>2</sub>は水素原子又はNa、K、NH<sub>4</sub>、もしくはアルカノールアンモニウムイオンを表す。但し、M<sub>1</sub>、M<sub>2</sub>が同時に水素原子であることはない。)で表されるN-アシルグルタミン酸塩または、

一般式(C)

【化3】



(式中、Rは炭素数7～21のアルキル基またはアルケニル基、M<sub>3</sub>、M<sub>4</sub>は水素原子又はNa、K、NH<sub>4</sub>、もしくはアルカノールアンモニウムイオンを表す。但し、M<sub>3</sub>、M<sub>4</sub>が同時に水素原子であることはない。)で表されるN-アシルアスパラギン酸塩とを含有することを特徴とする、パール光沢を有する洗顔料組成物。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来より、洗顔利用の界面活性剤として、アルキル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸エステル塩及びα-オレフィンスルホン酸塩などのアニオン界面活性剤が広く使われている。しかし、これらアニオン界面活性剤は、程度の差はあるがいずれも皮膚刺激性を誘発するという欠点がある。

2

【0003】また、パール光沢により高級感を付与する目的の為に、天然の魚鱗屑を配合すること、およびオキシ塩化ビスマス、雲母やチタン等のパール系顔料を配合すること等が知られている。しかし、これらパール剤は原料の価格が高いこと、耐光性が劣ること、皮膚に対する安全性に問題があること、保存中沈降する等種々の欠点を有している。一方、エチレングリコールジステアレートはパール光沢剤として広く使用されているが、40～50℃程度の温度で熔融溶解し、再び元のパール光沢を示さず外観を著しく損なう等の欠点を有している。

【0004】本発明は、このような従来品の欠点を改良する為になされたものであり、上記エチレングリコールジ脂肪酸エステルと、上記一般式(A)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤と、上記一般式(B)で表されるN-アシルグルタミン酸塩または上記一般式(C)で表されるN-アシルアスパラギン酸塩とを含有する洗顔料組成物が、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物となることを見出し、本発明を完成した。即ち、本発明は皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物を提供することを目的とするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成する為に、本発明のパール光沢を有する洗顔料組成物は次のような構成をとる。即ち、エチレングリコールジ脂肪酸エステルと、イセチオネート型陰イオン界面活性剤と、N-アシルグルタミン酸塩またはN-アシルアスパラギン酸塩とからなることを特徴とするパール光沢を有する洗顔料組成物である。

【0006】エチレングリコールジ脂肪酸エステルの脂肪酸部分の炭素数は14、16、18であり、C<sub>14</sub>は20～80%、C<sub>16</sub>は0～80%、C<sub>18</sub>は0～80%、ただしC<sub>16</sub>とC<sub>18</sub>との合計量は20～80%である。

【0007】本発明で使用する、エチレングリコールジ脂肪酸エステルの配合量は、一般的には3～20重量%であり、好ましくは7～13重量%である。配合量が3重量%未満では、良好で安定なパール光沢が得られず、20重量%を超えると起泡力が劣る傾向がある。

【0008】本発明における前記一般式(A)で表されるイセチオネート型陰イオン界面活性剤としては、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸ナトリウム(YS-Naと略記する)、ラウリン酸エチルエステルスルホン酸ナトリウム(LS-Naと略記する)、ヤシ油脂肪酸エチルエステルスルホン酸トリエタノールアミン(YS-Tと略記する)等が好ましい。

【0009】本発明における前記一般式(B)で表されるN-アシルグルタミン酸塩としては、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ナトリウム、N-ヤシ油脂肪酸シル-L-グルタミン酸トリエタノールアミン、N-ミリ

3

スチルーＬーグルタミン酸カリウム、ＮーオレイルーＬーグルタミン酸ナトリウム、Ｎーヤシ油脂肪酸・硬化牛脂脂肪酸アシルーＬーグルタミン酸アンモニウム等が好ましい。

【0010】本発明における前記一般式（Ｃ）で表されるＮーアシルアスパラギン酸塩としては、ＮーラウロイルーＬーアスパラギン酸ナトリウム、Ｎーヤシ油脂肪酸アシルーＬーアスパラギン酸トリエタノールアミン、ＮーミリスチルーＬーアスパラギン酸カリウム、Ｎーヤシ油脂肪酸・硬化牛脂脂肪酸アシルーＬーアスパラギン酸アンモニウム等がある。

【0011】本発明の洗顔料組成物の成分である前記一般式（Ａ）、（Ｂ）または（Ｃ）の界面活性剤の配合量は、一般式（Ａ）は９～３０重量％、（Ｂ）または（Ｃ）は１～１５重量％、ただし一般式（Ａ）と（Ｂ）または（Ｃ）の合計量は洗顔料組成物全量中１０～４５重量％が好ましい。一般式（Ａ）と（Ｂ）または（Ｃ）の合計量が１０重量％未満では、十分な起泡力が得られず、４５重量％を超えると均一で安定な組成物を得ることが困難となる。

【0012】本発明のパール状光沢を有する洗顔料は、液状、ジェル状、クリーム状に適用されるが、特に、クリーム状において本発明の効果が充分発揮される。

【0013】なお、本発明の洗顔料組成物には、上記必\*

評価記号

評価基準

◎…泡立ちが極めて良好、起泡力２５０mm以上

○…泡立ちが良好、起泡力２１０mm以上、２５０mm未満

△…泡立ちが普通、起泡力１７０mm以上、２１０mm未満

×…泡立ちが不良、起泡力１７０mm未満

【0017】（２）手荒れ試験法（皮膚刺激性）  
各試料につき、男女各５名、合計１０名のパネラーを用い、左右どちらか一方の手を、試料濃度５％、温度３５℃の水溶液に、他方の手を同温度の水に１０分間浸漬する操作を１日当たり２回、２日間続けて行い、左右の手の肌の荒れ状態の差を肉眼で判定した。

【0018】

評価記号

評価基準

◎…手荒れ性著しく弱い １０人中０～１名

○…手荒れ性やや弱い １０人中２～４名

△…手荒れ性やや強い １０人中５～７名

×…手荒れ性著しく強い １０人中８～１０名

【0019】（３）保存安定性試験

※

4

\* 須成分の他に、洗顔料組成物に常用されている成分および、添加剤を配合することも可能である。例えば、高級アルコール、シリコン油ラノリン誘導体、蛋白誘導体、ポリエチレングリコールの脂肪酸エステル類、脂肪酸エステル類等の油性成分、脂肪酸アルカノールアミド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アルキルアミノキシド等の非イオン性界面活性剤、アルキルアミドプロピルベタイン等の両性界面活性剤、ヒドロキシプロピルメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、カルボキシビニルポリマー等の水溶性高分子、ポリマーＪＲ（ユニオンカーバイドコーポレーション社製）、ポリコートNH（ヘンケル社製）マールコート５５０（メルク社）、ガフカット７５５N（GAF社製）等のカチオン性高分子、殺菌剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、pH調整剤、色素および香料等を、本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合できる。

【0014】

【実施例】次に、実施例によって本発明を更に詳細に説明する。なお、効果の測定は以下の評価法によった。

20 【0015】（１）泡立ち試験法

ロスミルス試験法に準じて起泡力を測定した。但し、試料は２％水溶液（CaCO<sub>3</sub>，５０ppm人工硬水使用）で温度４０℃である。

【0016】

30 ※ 温度４５℃の恒温室に放置し、パール状外観の有無（日数）を観察した（肉眼にて判定した）。

【0020】実施例１～６、比較例１～５。表１および表２に示す配合組成物のパール光沢を有するクリーム状洗顔料組成物を通常の方法で調整し、上記試験を行い表３にその結果を示した。

【0021】

【表１】

40

		配 合 量 (重量%)					
		実 施 例					
		1	2	3	4	5	6
組 成	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、20%, C <sub>18</sub> 、80%)	3	--	--	--	20	--
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、20%, C <sub>18</sub> 、80%)	--	20	--	--	--	3
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、80%, C <sub>16</sub> 、10%, C <sub>18</sub> 、10%)	--	--	10	--	--	--
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、50%, C <sub>16</sub> 、30%, C <sub>18</sub> 、20%)	--	--	--	10	--	--
	YS-Na	9	--	30	9	--	--
	YS-T	--	9	--	--	30	20
	N-ラウロイル-L-グルタミン酸 ナトリウム	1	--	1	15	--	--
	N-ラウロイル-L-アスパラギン酸 トリエタノールアミン	--	1	--	--	1	8
	ラウリル硫酸ナトリウム	--	--	--	--	--	--
	α-オレフィンスルホン酸ナトリウム	--	--	--	--	--	--
	エチレングリコールジステアレート	--	--	--	--	--	--
	ジプロピレングリコール	15	15	15	15	15	15
	ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	8	8	8	8	8	8
	モノラウリン酸ポリオキシエチレン (20)ソルビタン	1	1	1	1	1	1
	精製水	残余	残余	残余	残余	残余	残余

【0022】

\* \* 【表2】

		配 合 量 (重量%)				
		比 較 例				
		1	2	3	4	5
組          成	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、20%、C <sub>18</sub> 、80%)	--	--	--	20	--
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、20%、C <sub>18</sub> 、80%)	--	--	--	--	3
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、80%、C <sub>16</sub> 、10%、C <sub>18</sub> 、10%)	--	10	--	--	--
	エチレングリコールジ脂肪酸エステル (C <sub>14</sub> 、50%、C <sub>16</sub> 、30%、C <sub>18</sub> 、20%)	--	--	10	--	--
	YS-Na	9	30	--	--	--
	YS-T	--	--	--	30	--
	N-ラウロイル-L-グルタミン酸 ナトリウム	1	--	15	--	--
	N-ラウロイル-L-アスパラギン酸 トリエタノールアミン	--	--	--	--	8
	ラウリル硫酸ナトリウム	--	--	--	1	--
	α-オレフィンスルホン酸ナトリウム	--	--	--	--	20
	エチレングリコールジステアレート	10	--	--	--	--
	ジプロピレングリコール	15	15	15	15	15
	ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド	8	8	8	8	8
	モノラウリン酸ポリオキシエチレン (20)ソルビタン	1	1	1	1	1
	精製水	残余	残余	残余	残余	残余

【0023】

【表3】

(6)

特開平6-157292

10

【0024】実施例1～6より明らかなように、本発明の成分を用いた洗顔剤組成物はいずれも優れた性能を示していた。一方、必須成分のいずれかを欠いた比較例1～5は、いずれも劣った性能を示し、本発明の目的を達成出来なかった。

【0025】

【発明の効果】以上記載のごとく、本発明が、皮膚に対する作用が温和で、優れた起泡力を有し、安定性の良好なパール光沢を有する洗顔料組成物を提供することは明らかである。

10

20

30

	実施例						比較例				
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5
泡立ち試験結果	○	△	◎	○	◎	◎	△	◎	○	○	○
手荒れ試験結果	◎	◎	○	◎	○	○	◎	○	◎	×	△
保存安定性試験結果	25	38	33	35	37	23	7	10	12	11	3

フロントページの続き

(51)Int. Cl.<sup>5</sup>

C11D 1:10  
1:14)

識別記号

片内整理番号

FI

技術表示箇所

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L4: Entry 3 of 5

File: JPAB

Jun 3, 1994

PUB-NO: JP406157292A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06157292 A

TITLE: FACE WASHING AGENT COMPOSITION HAVING PEARLY LUSTER

PUBN-DATE: June 3, 1994

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

TSUCHIYA, YUICHI

YOSHIDA, KATSUHIKO

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KANEBO LTD

APPL-NO: JP04341300

APPL-DATE: November 26, 1992

INT-CL (IPC): A61K 7/50; A61K 7/00; C11D 1/37

## ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a composition having mild action on skin, excellent foaming power and stable pearly luster, comprising an ethylene glycol di-fatty acid ester, isethionate type anionic surfactant and an N-acyl glutamate.

CONSTITUTION: The composition comprises (A) an ethylene glycol di-fatty acid ester having a fatty acid composition of 20-80% 14C, 0-80% 15C, 0-80% 18C and 20-80% total amount of 16C and 18C, (B) an isethionate type anionic surfactant of formula I (R is 7-19C alkyl or alkenyl; M is alkali metal, NH<sub>4</sub>, etc.) (preferably sodium coconut oil fatty acid ethyl ester sulfonate and (C) an N-acyl glutamate of formula II (R is 7-21C alkyl or alkenyl; M1 and M2 are H, K, etc., with the proviso that M1 and M2 are not H at the same time) or an N-acyl aspartate of formula III (M3 and M4 are M1 and M2).

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&amp;Japio

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)